

村政方針

明日が待ち遠しくなるような、わくわくする楽しいふるさと

4つの指標

- 1 次世代・継承
- 2 なりわい
- 3 10年後を見据える
- 4 帰還困難区域

4つの指標と2つの力点を持って施策を進めます

力点2

村の将来への布石

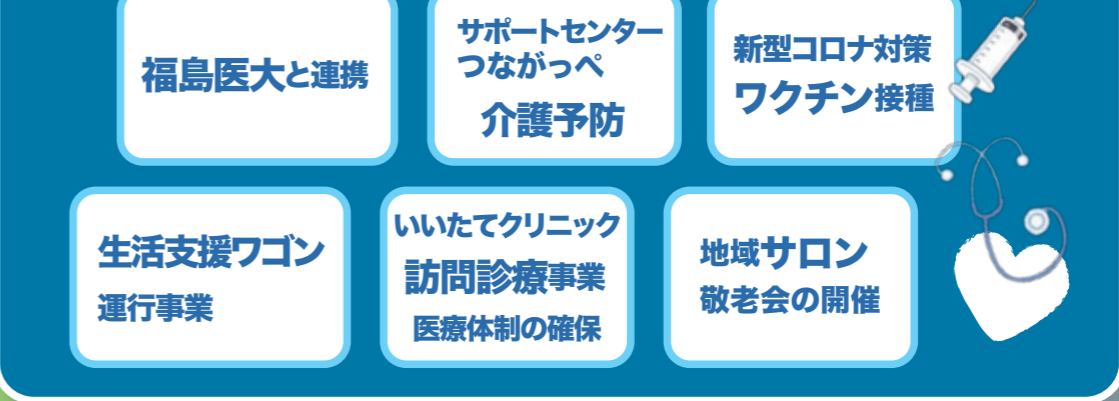
村民の今を支える

力点1

1 生きがいと生業の力強い再生と発展



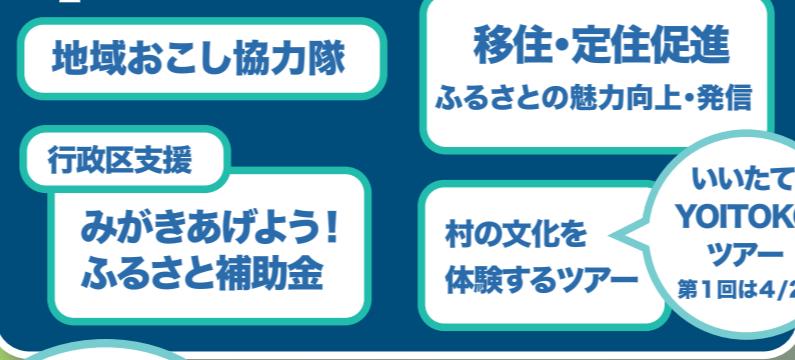
2 健康で生き生きと楽しく暮らせるふるさとづくり



3 情報通信技術 (ICT) による新しい村づくり



4 ふるさと資源のフル活用



令和5年春の避難指示解除に向けて 帰還 困難区域

5 生き生きとした学びの場を育む



- 木質バイオマス発電
- ゼロカーボン
- 自治体DX デジタルトランスフォーメーション
- ふくしま田園 中枢都市圏
- 飯舘牛 (黒毛和牛)
- あぶくまもち

- 企業消防
- 災害対策
- 広報
- ホームページ
- 税
- 買い物支援事業

「明日が待ち遠しくなるような、わくわくする楽しいふるさと」を目指して



飯舘村長 杉岡 誠

新しい年度がスタートしました。『明日が待ち遠しくなるような、わくわくする楽しいふるさと』の実現に向け、令和4年度は、4つの指標、2つの力点を持って、さらに『ふるさとの担い手』を主役とする政策を進めていきます。

4つの指標は、施策に取り組むにあたっての『姿勢』でもあります。1つ目は「次世代・継承」。次世代が踏み出す一歩をさらに力強いものにする施策に取り組みます。2つ目は「なりわい」。企業誘致や起業支援を含む産業の創出を強力に進めつつ、意欲を持って村内での「なりわい」興しや就労に取り組み方を村民、移住者の区別なく多角的に支援します。3つ目は「10年後を見据える」。今後10年間の年代ごとの人口やニーズの変遷を想定しながら、将来を見据えた施策に取り組みます。そして4つ目は「帰還困難区域」。長泥地区特定復興再生拠点区域の令和5年春の避難指示解除に向けて、2月に立ち上げた長泥地区除染検証委員会による検証や、住民の皆さまとの協議、生活インフラの再整備、国県との協議など、取り組みを加速していきます。

これら4つの指標・姿勢に加え、「村民の今を支える取り組み」「村の将来への布石となる取り組み」の2つの力点をもって事業を進めます。

「村民の今を支える取り組み」として、引き続き村民の「命と生活を守る」ための取り組みとして、新型コロナウイルスの村内・村外の接種を進めます。また、福島県立医科大学と連携した介護予防体制の強化のほか、新たに訪問診療に取り組み、医療・介護・福祉環境の強化を図っていきます。なお見守り活動と連携した買い物環境の充実(商福連携)などにもチャレンジしていきます。

「村の将来への布石となる取り組み」としては、新たな世代が可能性を見出す「わくわくする楽しいふるさと」を創出するために『飯舘牛復活プロジェクト』や『あぶくまもち』等による新たな産品開発・販売を進めます。また『ゼロカーボンレジット』宣言に基づき、脱炭素社会の実現に向けて村の農地や山林に新たな価値を生み出す取り組みを進め、自治体デジタルトランスフォーメーションやデジタル田園都市構想に則したICT施策・情報通信環境の構築などにチャレンジしていきます。